

# DISCOVERY

シコク発見



**地域の方々のチームワークとアイデアで  
課題解決を支援していきたい。**

## —繋がりが生まれる場所—

サイボウズ株式会社は、1997年に愛媛県松山市で創業し、kintone（キントーン）などのグループウェア（※1）を提供しているソフトウェア開発会社です。本社は東京に移転しましたが、長く勤めてくれる人材の確保や地域と繋がる拠点を作る目的で、再び松山にオフィスを作りました。

「ここは松山市のみなさんのものです」

オープンしたとき、弊社社長の青野が語った言葉です。

地域の人々が集い、新たなチームワークを共創する場にしたいという想いから、市民の皆様が無償で開放しています。これまで、セミナーやワークショップ、時にはサッカーワールドカップのパブリック・ビューイングなど様々なイベントが開催されました。当社はソフトウェア会社なので、「貸しオフィスやっています」と大っぴらには言ってませんが（笑）、2017年から2019年までの約3年間で計289回、延べ8,754人が集まりました。「サイボウズで何か面白いことやってるぞ」みたいな感じで、口コミで広がったんです。

私は、ここの責任者としてほぼ全てのイベントに同席していますので、自ずと多くの職種の方と繋がりができました。「キッチンカーについて教えてほしい」というITとは無縁なお悩みでも、何かしらノウハウがある人に繋がりますね。

※1 情報共有やコミュニケーションを支援するアプリケーションソフト



## ▶ —地域の「やりたい」を実現へ—

そんな松山オフィスから地域支援に繋がった事例をいくつか紹介したいと思います。花園町ブライダル、そして松山テイクアウト部です。

### 【花園町ブライダル】

NPO法人主催の花園町商店街の活性化を考える「花園アイデアソン」がキッカケです。壁一面に貼られたアイデアを見て、直前のイベントで繋がりがあった青木純氏（株式会社nest代表）が、東京・南池袋公園の「にぎわいを作るプロジェクト」で公園ウェディングを催行したことを思い出したんです。

「花園町商店街で結婚式をやるっていうのはどうですかね？」

何気に発した提案でしたが、参加した方々から「どうしても実現したい!」という声が上がりました。そこから、商店街の方やブライダル専門学校の学生さんに協力をお願いし、挙式したいカップルを募り、多くの人たちの協力があって「花園町ブライダル」は誕生しました。最初は一組だけの予定でしたが、2018年からこれまで計4組が挙式し（※2）、今は商店街を代表するイベントの一つになっています。

※2 3年目の2020年度はコロナ禍で中止



## 【松山テイクアウト部】

こちらは、コロナ禍の中で支援が広がった事例です。

「外出自粛で経営が厳しい飲食店を支援したい」。そんな想いで、有志がフェイスブックグループを立ち上げ、お店のテイクアウト情報を掲載したのがキッカケです(約1か月で7,000人以上が登録)。

のちに飲食店から宅配手段がないとの課題を聞き、市内のタクシー業者と協働して「宅タク便」を立ち上げました。企業の支援金を原資に飲食店は負担ゼロ、利用者も4.4キロ以内は無料というデリバリーシステムです。さらに、自宅学習期間中の学生がグーグルマップで宅タク便加盟店検索MAPを作ってくれました。はい、地理を選択している学生さんです(笑)。

小さなキッカケで、地域に支援の輪が広がるのは嬉しいですね。



## —地域をチームにする—

一方で、2020年10月には、サイボウズ本社も全社的な取組として「地域共創応援プログラム」を立ち上げました。当社のグループウェアなどを活用しつつ、地域の方々と協働で課題解決を支援していく取り組みです。スローガンは、「地域をチームにする」。応援テーマは、地域経済や教育、防災や農業など多岐に亘ります。

例えば防災分野ですと、過去の様々な災害などの復旧・復興に携わったノウハウを生かし、災害対策本部と現地スタッフ間の通話の自動テキスト化のほか、地図と連動した被災情報の見える化、仮設住宅・支援物資情報の共有、ボランティアセンターの受付など、刻々と変化する災害現場のニーズに即応するための情報共有ポータル構築を支援しています。パソコンはあるんだけど、誰も使えないから結局紙で情報のやり取りをする、こんな状況は結構あるんです。

また、農業分野ですと、食の安全や環境保全に取り組む農家に与えられるGAP認証の取得を支援するため、農家さんが使いやすい形で農薬や肥料の使用記録のデータベース化を支援したり、そのノウハウを勉強会で共有したり…。

それぞれ分野は異なりますが、データベースとコミュニケーション基盤の課題は関連していることが多いです。地域の方々による自律的な課題解決に協力しています。





## ▶ サイボウズ流・問題解決メソッドへー

「サイボウズ(松山オフィス)に来たら何とかかなと思って・・・」。そんな問い合わせを頂くことがあります。100社あれば100とおりの実情があるので、まずは事実の把握から始めています。

例えば、「みんなが言っています」という「みんな」って誰? 「〇〇が減った」という「減った」とはどれくらい? 個人がそれぞれの尺度で話をすると噛み合わなくなるんです。事実が分かれば理想を聞き、そこから課題を考える。地域のみんなで共有し、どう解決するかを話し合う。

必勝パターンはないですが、私は松山オフィスをそんな「地域の共創の場所」にしていきたいんです。花園町プライダルもテイクアウト部も地域との繋がりで生まれたものですし、全社的な「地域共創応援プログラム」も、また世の中の動きも、軸は地域自身による課題解決にあると考えています。

私の出身は愛媛県内子町旧小田地区、林業が盛んな町です。皆さんご存じのとおり過疎化・高齢化が進む地域ですが、最近、若手後継者が子供向けの林業体験型イベントを開催するなど地元を盛り上げる活動をしているんです。大変頼もしく、励みになる取り組みだと思います。私自身、特殊な技能を持っているわけではないですが、地元に応い繋がりを持つのが価値だと思っていますので、今後も面白いことにどんどん首を突っ込んでいきます。

ここ松山オフィスから、たくさんの「できた」を全国に届けていきたいですね。

(※掲載内容は2020年12月現在のものです。写真はサイボウズ株式会社様にご提供頂きました)

### 編集後記



「チームワークあふれる社会を創る」という企業理念に基づき、地域に様々なつながりを生むサイボウズさん。自社サービスと離れた相談であっても関わっていく姿勢やその実績を伺えば何うほど「ここ何する会社だっけ?」と思わされる企業でした。

(松山財務事務所 財務課・武田和佳奈)

自社で提供されているクラウドサービスを、ありとあらゆる分野に応用され、地域に根差して活動されていることが大変興味深かったです。何か困ったことがあればサイボウズさんにご相談すればなんでもできるんじゃないかとまで感じるほど、地域の課題に情熱を持って取り組まれていることがわかり、大変勉強になりました。

(松山財務事務所 管財課・渡邊 貴大)